

# 院内研修システム構築の取り組み

医療法人社団輝生会

初台リハビリテーション病院

船橋市立リハビリテーション病院

教育研修局 森田秋子

# 教育研修局の設置

- 当法人は、2つの回復期リハビリテーション病院と、2つの在宅総合ケアセンターから成る。
- 4施設を通じ、教育研修を担当する専任のスタッフを配置している。
- Dr, Ns, CW, PT, OT, ST, SW, CNから成る。
- 教育研修局の役割  
経験の浅い専門職を、効率よく教育する  
専任で研修の計画と実施を担当する  
専門性とチームアプローチの双方を目指す

# 輝生会の教育目標

1. 社会人として、適切な行動をとることができる
2. 専門職として、質の高いサービスが提供できる
3. 業務に必要な連携、コミュニケーションを行うことができる

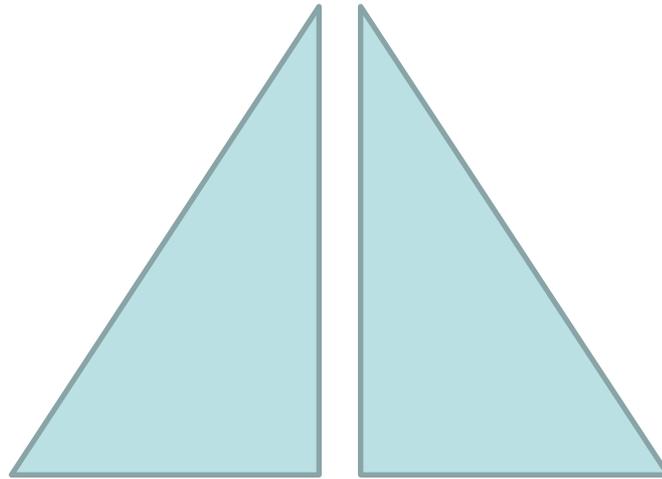
# 年次別教育目標

年数	項目	内容	
シニア	6年目以上	職業人	1. 社会人として他者の手本となる行動ができ、後輩に指導することができる
		専門職	2. 専門職として困難な場面においても、より良い解決策が提案できる
			3. 関心のあるテーマについて論文を作成することができる
	4～5年目	連携・コミュニケーション	4. 部門内で、指導体制を構築し、効率的な指導ができる
		職業人	5. チームのリーダーとして管理運営を行うことができる
			1. 社会人として他者の手本となる行動ができ、後輩に指導することができる
ジュニア	3年目	専門職	2. 専門職として困難な場面においても対処できる
		連携・コミュニケーション	3. 学会発表を行うことができる
			4. 部門内全体で、後輩に指導することができる
	2年目	職業人	5. チーム内でリーダーの補佐としての役割を果たすことができる
		社会人	1. 社会人として適切に行動でき、後輩に指導することができる
			2. 専門職として基本的なことから自立して行うことができ、困難な場面では適切に相談できる
専門職		3. 輝生会研究発表会で発表できる	
		連携・コミュニケーション	4. 専門職として後輩指導ができる
	5. 他職種と情報交換、生活期をイメージできる		
1年目	社会人	1. 社会人として適切に行動できる	
		2. 専門職として基本的なことから理解し、概ね適切に業務が遂行できる	
	専門職	3. 部門内で症例発表を行うことができる	
		4. 専門職として後輩にアドバイスできる	
連携・コミュニケーション	5. 他職種と情報交換し、退院時のイメージを持つことができる		
	4	1. 社会人としておおむね適切に行動できる	
専門職		2. 専門職として基本的なことから理解し、援助を受けながら概ね適切に業務が遂行できる	
		3. 担当症例のケースレポートがまとめられる	
連携・コミュニケーション	4. 他職種と話し合うことができる		

# リハビリテーションに関する 教育の柱

- 専門性とチームアプローチの両立
- 機能と生活の理解

# 研修の成り立ち



共通研修      部門研修

- 共通研修と部門研修は、互いに補完し合い、研修の柱となる。
- 教育研修局チーフ・チーフ補佐は共通研修と部門研修の双方を担当する

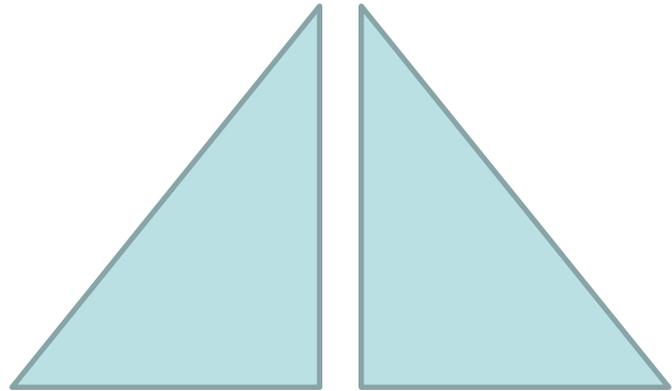
# 研修・評価システム

輝生会の教育目標

1. 社会人として、適切な行動をとることができる

2. 専門職として、質の高いサービスが提供できる

3. 業務に必要な連携、コミュニケーションを行うことができる



共通研修

部門研修



自己評価

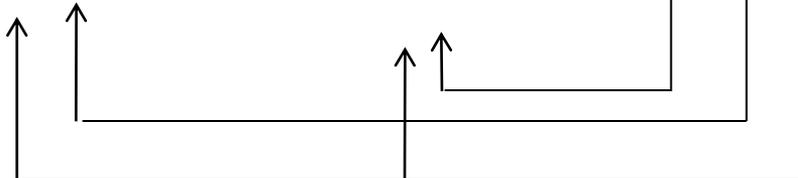
スタッフ目標

職種別  
専門領域評価

上司評価

上司評価

職種別  
専門領域評価



# 共通研修の目的

輝生会は、障害を持つ人々を、機能や能力だけでなく、生活、家族、地域を含み全人的にとらえ、サポートしていくことができる専門職の育成をめざす。

共通研修の目的は、リハビリテーションの両輪である機能と生活の双方を理解すること、専門性とチームアプローチの両立を目指すことである。

各部門で行われる専門研修と補完し合いながら、両者を兼ね備えた専門職の育成を目指す。

# 共通研修の成り立ち

リーダーシップ研修

プリセプター研修

3年次研修

2年次研修

新採用者研修  
(中途採用者研修)  
フォローアップ研修

研究発表大会

スタッフによる

研究発表会

年4回実施

# 新採用者研修の目的

- チームアプローチとリハビリテーションマインドを体感する
- 自職種以外の職種を大まかに理解する
- 業務上必要な知識、技術について、今後の学習につなげる

# 新採用者研修の概要

- 実質7日間
- 講義, 実技実習, ワークショップから成る
- 内容
  - 講義: 医学的知識, 医療安全等
  - 実習: 移乗動作, 入浴介助等
  - ワークショップ: 他職種に触れ,  
チームアプローチを考える

# 2年次研修の目的

- 医療機関を退院した患者の長期的予後を知る
- 在宅復帰後の生活の様子を理解する
- その他

# 2年次研修の概要

- 1年次に担当した患者さんの外来あるいは訪問リハを担当・同行，家庭訪問に同行
- 入院時の評価と現在を比較検討し，生活期の理解を深める
- 部門内で発表し，専門的理解を深める
- 多職種合同の発表会で，チームアプローチや連携について理解を深める

# 3年次研修の目的

- 自職種の専門性に対する理解と自覚を深める
- 他職種への理解を深め、連携の重要性に気づく
- 専門性とチームアプローチの双方の重要を認識する

# 3年次研修の概要

- 一泊二日の宿泊研修
- 自己の振り返り演習
- ワークショップ

他職種への要望について

自職種に望まれていることについて考え

自らの専門性に向き合う

- 発表とディスカッション

# 部門研修の概要

- 目的

  - 専門性と効率性の両立

  - 専門知識・技術を磨く

  - 自ら学ぶ力を身につける

- 形態

  - 講義・演習・OJT・症例発表

# 研究発表大会の目的

- 日頃の研究の取り組みの発表の機会
- 外部発表の予演会
- 研究に対する理解の向上とスキルアップ

# 課題と展望

- 新人スタッフの数が多く、効率的に進めるための工夫が必要
- 経営的にはデメリット
- 超過勤務の改善につなげることが必要
- 専門職の年齢構成から考えて、必須の試み
- 効率的に成果の上がる研修システム構築が求められている